



◎ グループ課題 ◎ スライドの作成（22ページ～39ページ）

事前学習～広島訪問～事後学習の行程において、設定したテーマに基づき、各グループで学習の成果をまとめました。学校や地域等での報告の際に、活用できるよう作成しました。

◎ 各班のまとめ ◎ 模造紙の作成（40ページ～43ページ）

「あなたにとっての平和とは」「平和のためにできること」について、各自の思いを班の中で共有し、班ごとに模造紙にまとめました。

◎ 個人の課題 ◎ 新聞の作成（44ページ～67ページ）

個人でテーマを決め、新聞形式にまとめました。

戦後70年事業「中学生広島派遣事業」 学習成果報告



◎ 事前学習 ◎

【第1回】

日時 平成27年7月26日(日) 13:30~16:00

場所 市役所 7階 大会議室

内容 (1)事業の趣旨等の説明 (2)自己紹介 (3)係決め

(4)日程・学習課題の説明

(5)戦争体験者の講話「広島で学んでほしいこと」【講師】飯田耀子さん

(6)感想交流

【第2回】

日時 平成27年8月1日(土) 13:30~16:00

場所 生涯学習センターけやき 2階 大会議室

内容 (1)調べ学習 (2)グループワーク (3)グループ課題の役割分担について

(4)広島訪問3日目のグループ行動について

(5)広島訪問日程説明と確認事項



事前学習第1回(戦争体験者 飯田耀子さんの講話)



<講話をしてくださった飯田耀子さん>

<概要と感想>

広島が太平洋戦争によってどんな被害を受けてしまったのか、なぜ広島が狙われなければならなかったのか

事前学習第1回では、私たちが実際に広島に行く前に、戦争体験者の飯田耀子さんにお話を聞きました。広島に原爆が落とされたことは、許しがたいことではありますが、この事実を国民には隠していたということは、さらに彼らを苦しみに突き落とすことと同じです。

このことを、今度は私たちから後世に伝えていくべきだと改めて思うとともに、広島訪問への思いが深くなりました。

事前学習第2回(グループワーク)



<発表中の様子>

<概要と感想>

事前学習第2回は、ゲームをして緊張をほぐした後、広島訪問に向けて見学する施設について資料を読み、気になったところなどを付箋に書き込み、模造紙に貼っていき、班ごとに考えたキーワードを付け足しました。

そして、訪問3日目のグループ行動での訪問場所を考え、学習課題の役割分担を決めました。

最後に、市長さんからあいさつがあり、小田原市の代表としての思いがより強くなりました。

◎ 広島訪問1日目 ◎

平成27年8月5日（水）

《行程》

○被爆体験講話

【講師】大田金次さん

○広島平和記念公園内見学

【ガイド】広島市観光ボランティアガイド協会（2名）

- ・原爆ドーム
- ・原爆の子の像（千羽鶴の奉納）
- ・原爆死没者慰霊碑（献花） ほか

○広島平和記念資料館（自由見学）



被爆体験講話①



＜講話をしてくださった大田金次さん＞

＜概要と感想＞

広島訪問1日目は、まず、被爆者 大田金次さんのお話を聞きました。

大田さんは、現在75歳で、被爆した当時は5歳でした。

広島1945年8月6日、天気は快晴、上空に戦闘爆撃機が襲来し、午前8時15分原爆が投下されました。現在の原爆ドームの周辺、高度580mで強烈な閃光をはなち、爆発しました。直径280mの火球から発生した放射線を含む熱線の波は爆風になり、半径2km以内の住民、建物などを焼きつくしました。

被爆体験講話②



<講話へのお礼の言葉>

<概要と感想>

原爆投下時の大田さんは、母親と家を出るところでした。父親と弟は家の中にいました。投下時、爆風により、大田さん、弟、母親は飛ばされてしまいました。気づいた時には、防空壕の中にいました。防空壕の中は暗いので、名前を呼び合って探しました。そして、防空壕から出ると、父親が柱に足を挟まれていました。母親が柱をどかし、父親は柱から抜け出ることができました。大田さん一家は、爆心地から約900mのところにあつたにも関わらず、家族全員生きていました。

原爆ドーム



<原爆ドームの現状>

<概要と感想>

講話後は、広島平和記念公園内の見学です。原爆ドームは大正4年、広島県物産陳列館として完成しました。建物はレンガ造りの3階建てで、正面中央部分は5階建て、その上にドームが載せられていました。その後、広島県産業奨励館と改称しました。この被爆した原爆ドームは、今でも、世界遺産に登録されていますが、戦後は被爆の悲惨な思い出に繋がることから取り壊しを望む声が多くあつたそうです。しかし、被爆で亡くなった樫山(かじやま)ヒロ子さんの日記に、「原爆ドームだけが恐るべき原子爆弾を後世に訴えかけてくれるだろう」と記されており、その言葉に心を打たれた人々の運動により、保存工事が決定されました。

千羽鶴の奉納(原爆の子のために…)



<千羽鶴奉納の様子>

<概要と感想>

2歳の時に被爆した佐々木禎子さん。
10年後、白血病を患い、入院している時、「折鶴を千羽折ると元気になる」と信じ、一生懸命折りましたが、願いは叶わず亡くなってしまいました。
彼女の死を惜しんだ同級生たちが、彼女を含む原爆で犠牲になった子どもたちのために、「原爆の子の像」を建てました。

私たちは、彼女たちのために、原爆の子の像で、市内の中学生が折った千羽鶴を納めました。もう、子どもが戦争に巻き込まれないことを祈ります。

原爆死没者慰霊碑に献花を



<原爆死没者慰霊碑で献花をする様子>

<概要と感想>

原爆死没者慰霊碑は、原爆で犠牲になった人への追悼の意を込めたものです。
犠牲者の名簿が入っている棺には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」と刻んであります。
アーチの中から向こう側をのぞくと、原爆ドームが見えます。

私たち22名全員で、一輪ずつ白いカーネーションを献花しました。
私たちが同じ過ちを繰り返さないように努めなければいけません。

広島平和記念資料館(原子爆弾の構造)



<広島に投下された原子爆弾>

<概要と感想>

広島平和記念資料館には、さまざまな貴重な資料が展示されています。

原爆の構造も詳しく展示されていました。

物質を構成している原子の中心にある原子核を人工的に壊すと、大量のエネルギーが放出されます。原子核が壊れることを「核分裂」といい、これがごく短い時間に次々と広がると、瞬間的に非常に強大なエネルギーを生み出します。このエネルギーを兵器として利用したものが原爆です。

広島平和記念資料館(遺品「お弁当」)



<真っ黒なお弁当>

<概要と感想>

このお弁当は、折免滋(おりめんしげる)くんのもので、滋くんは、お母さんが作ってくれたお弁当を喜んで持って行きましたが、原爆により命を奪われました。その時に抱えていたお弁当です。

お母さんは、遺体の中からお弁当を抱えた姿の滋くんを見つけ、口に水を注いであげました。その後、庭に骨をまき、そこに白いアジサイを植えました。今では、毎年たくさんの花を咲かせています。このアジサイには、白米をお腹いっぱい食べさせてあげたいという、母シゲコさんの深い思いが込められているのです。

広島平和記念資料館(遺品「懐中時計」)



<8時15分で止まった懐中時計>

<概要と感想>

この懐中時計は、二川謙吾さんが息子からもらった時計で、肌身離さず持っていました。しかし、原爆によって被爆し、謙吾さんは8月22日に亡くなりました。懐中時計も8時15分を指して止まってしまいました。この時計が当時の衝撃の大きさを物語っているのです。

広島平和記念資料館(遺品「三輪車」)



<三輪車>

<概要と感想>

この三輪車は、持ち主のお父さんが、亡くなってしまった息子と仲の良かった友達と一緒に土の中に埋葬しました。その後、土を掘り返すと、この三輪車が見つかり、2人の骨も見つかったそうです。その遺骨の手は固く握りあっていました。

お弁当、懐中時計、三輪車・・・
このように、遺品は原爆の恐ろしさを忘れ去られないように、被害の大きさを私たちに語りかけているのです。

広島平和記念資料館(人影の石)



<人影のついた石段>

<概要と感想>

写真を見て分かるように、被爆の怖さが分かる遺品が資料館にはたくさんあります。この写真は、「人影」です。原爆の約4,000度を超える熱で、このようになってしまいました。人が座っていた部分だけが黒く焼け残り、このような“影の石”が作られました。このようになる熱を、当時の人々は受けたのです。とても恐ろしく思いました。

広島平和記念資料館(人体への影響①)



<原爆爆発直後のきのこ雲>

<概要と感想>

原爆が投下されて、大量の放射線が放出され、内臓などに致命的な被害を及ぼしました。爆発直後には、きのこ雲が立ち上がり、泥やチリなどが、上空に巻き上げられました。これらのチリやススなどは放射能を帯びており、空気中の水滴と混じり、雨粒となり、地上に降りました。これを「黒い雨」と言います。

広島平和記念資料館(人体への影響②)



<背中や両腕がケロイドになった女性>

<概要と感想>

ケロイドは、1946年～1947年ごろに最も発生しました。ケロイドとは、正常でない皮膚組織が過剰に増殖して、不規則に盛り上がった状態のことです。爆心地から2km前後までの地域で、熱線を直接受けた多くの人が苦しみました。

白血病は血液ガンです。折り鶴の禎子さんは、被爆から10年後に発生したように、7年～8年後に多く発生しました。血液中の白血球が未熟なまま増え続け、血液が減少して貧血などを引き起こします。白血病は、年齢が若いほど発生しやすいものでした。

広島平和記念資料館(2歳で被爆した禎子さん)



<小学校入学時の禎子さん>

<概要と感想>

佐々木禎子さんは、2歳のときに被爆しましたが、無傷でした。その後は、リレーの選手になるなど、元気に生活を送っていました。

広島平和記念資料館(禎子さんと折り鶴)



<禎子さんが折った折り鶴>

<概要と感想>

小学校6年生の秋に体調を崩し、翌年に白血病と診断され、入院しました。「折り鶴を千羽折ると病気が治る」と聞き、回復を祈り、折り続けました。写真は、禎子さんが実際に折った折り鶴です。回復を祈り続けた禎子さんですが、1955年10月25日、12歳で亡くなりました。

広島平和記念資料館(原爆の子の像と禎子さん)



<原爆の子の像 除幕式>

<概要と感想>

禎子さんが亡くなったのを悲しんだ同級生たちが、原爆で亡くなった子を慰霊し、平和を守るための記念の像を造ろうと呼びかけました。その像が、「原爆の子の像」です。禎子さんのお話は、たくさんの国で本にされ、伝えられています。

◎ 広島訪問2日目 ◎

平成27年8月6日(木)

《行程》

- 平和記念式典に参列(参列者:約55,000名)
 - ・原爆死没者名簿奉納 ・式辞 ・献花 ・黙とう・平和の鐘
 - ・平和宣言(広島市長) ・平和への誓い(こども代表2名)
 - ・あいさつ(内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長)
 - ・ひろしま平和の歌

- 呉市大和ミュージアム(講座、自由見学)
 - ・「大和」講座・・・戦艦大和の歴史・技術について
 - 【講師】大和ミュージアム職員

- 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(自由見学)

- 本川小学校平和資料館
 - 【ガイド】本川小学校保護者

- グループワーク(振り返り等)



平和記念式典①



<原爆死没者名簿奉納、黙とう・平和の鐘>

<概要と感想>

広島訪問2日目は、平和記念式典への参列からです。

戦後70年・被爆70年ということもあり、参列者数は約55,000名でした。

今年、原爆死没者名簿奉納により、359名の名前が載った3冊の名簿が奉納されました。この名簿が入り、名簿は109冊となり、計29万7,684名の名前が載っています。

続いて、午前8時15分、原爆が投下された時間に黙とうを行いました。遺族代表 仲川弘美さんと、こども代表 東川悠輝さんが鐘をつき、1分間参列者全員で黙とうしました。

平和記念式典②



<平和記念式典での献花>

<概要と感想>

「平和への誓い」で、こども代表の桑原悠露(くわはらゆうろ)さん(白島小6年)と細川友花(ほそかわゆか)さん(矢野南小6年)は、「広島に育つ私たちは事実を 被爆者の思いや願いを 過去 現在 未来へと 私たちの平和への思いとともにつないでいく一人となることを誓います」と述べました。

平和記念式典③



<あいさつをする安倍内閣総理大臣>

<概要と感想>

「平和への誓い」の後、総理大臣、広島県知事、国連事務総長からあいさつがありました。「『核兵器のない世界』の実現に向けて、一層の努力を積み重ねていく決意です」「広島は、核兵器を廃絶し、平和を礎にして世界が発展するため、平和の拠点として世界に貢献していきたいと思います」「広島は世界に勇気を与えており、国際社会は核兵器のない世界を実現することにより広島の経験を生かす義務を負っています」と、世界で核兵器の廃絶を進めていく方針を参列者に伝えました。
この言葉が世界の人々に伝わり、核兵器がなくなればよいなと思いました。

大和ミュージアム(呉市について)



<大和ミュージアムから臨む呉の港>

<概要と感想>

続いて、呉市大和ミュージアムを見学しました。

呉市は江戸時代までは小さな港でした。しかし、明治時代になると政府は、『富国強兵』をスローガンに、“欧米諸国に対抗するための産業・軍備の近代化”を進めました。そこで海軍をつくり、その拠点となる鎮守府(ちんじゅふ)を、呉、横須賀、舞鶴、佐世保の4か所に設置しました。

鎮守府とは、軍港に設けられた海軍の機関のことです。海軍基地の防衛、水兵の教育、艦艇の整備の3つを行います。

大和ミュージアム(海軍について)



<職員の方から「大和」講座を受ける様子>

<概要と感想>

海軍は、明治頃に日本に多くのものを伝えました。その中でも、レンガ造りの建物、ビル、電車、野球は、海軍がなければ日本に伝わらなかったものです。

そのような海軍ですが、短所もあります。それは、戦争になると、海軍の施設がある地域は非常に狙われやすく、空襲がひどくなることです。そのため、広島に原爆が投下される1か月前には、呉市は火の海になってしまったと言います。

大和ミュージアム(戦艦「大和」について)



<10分の1の戦艦「大和」>

<概要と感想>

1941年12月、戦艦「大和」は造られました。「大和」は、全長263mの蒸気で動く船ですが、その技術はもともと日本にはなく、外国から船を買い、それを見よう見まねで造って取り入れました。

「大和」を造るために使った技術は、最先端のものが採用されました。そのためあって、図面はなんと3万枚にも及びました。そして、驚くことに関係者以外に「大和」が造られているということを知る人はいなかったと言います。

戦時中に、軍艦を造るという一つの産業ができましたが、戦後は平和のために、その技術が役立てられました。たくさんの犠牲の上に、今の私たちの暮らしがあることを学びました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



<国立広島原爆死没者追悼平和祈念館>

<概要と感想>

続いて、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。

1945年8月6日に投下された原爆により、亡くなった市民、捕虜、軍人の死者の存在を後世に残すため、そして今後、こうした惨劇を二度と起こさないために作られた施設です。

施設内には、原爆投下の8時15分を表すモニュメントが2つあります。1つのモニュメントの場所には、原爆が投下された直後の町の風景のパノラマが、周りの壁に描かれています。もう1つのモニュメントの場所には、施設の地下にあった被爆したガレキが置いてあります。

本川小学校平和資料館



<本川小学校平和資料館>

<概要と感想>

訪問2日目の最後は、本川小学校平和資料館の見学です。本川小学校は明治6年に創立された学校です。昭和20年8月6日の原爆投下で、本川小学校は爆心地に最も近い小学校として大きな被害を受けました。校舎は被爆直後、救護所として使われました。この建物は、今も原爆投下の日を語ってくれています。この写真は、本川小学校の被爆後の様子です。壁が原爆の熱によって焦げ、教室の中の物がボロボロになっています。私たちは本川小学校を訪れて、原爆によって生活が壊される恐怖や悲しさを感じました。この悲しみを繰り返さないようにするため、戦争について伝えていきたいです。

◎ 広島訪問3日目 ◎

平成27年8月7日（金）

《行程》

○グループワーク（広島平和記念資料館等見学）



グループワーク(被爆地広島を忘れない)



<被爆樹木アオギリ>

<概要と感想>

広島訪問最終日は、広島平和記念公園内でグループワークを行いました。もう一度見学したい施設や、新たに行ってみたい施設など、班行動で回りました。

まず、どの班も広島平和記念資料館を訪れ、時間をかけて、ゆっくり、じっくり見学しました。

公園内には、まだまだ多くの施設があります。「動員学徒慰霊碑」や、戦後70年事業として小田原市や市内公立中学校においても苗木を植樹した「被爆樹木アオギリ」など、時間が許す限り、見学しました。

◎ 事後学習 ◎

【第1回】

日時 平成27年8月17日(月) 13:30~16:00
場所 市役所 6階 602会議室
内容 (1)グループワーク(グループ課題の作成)
(2)その他

【第2回】

日時 平成27年8月23日(日) 13:30~16:00
場所 市役所 7階 大会議室
内容 (1)グループワーク(広島から学んだ「平和」~私たちにできること~)
(2)グループ発表
(3)今後に向けて



事後学習第1回(グループワーク)



<グループワークの様子>

<概要と感想>

事後学習第1回では、広島訪問で学んできたことを個人で整理して、各班に割り当てられた課題をスライドにまとめました。この作業が、グループの課題です。調べ学習や現地で学習したことを基に、説明文を作成しました。

グループワークでは、広島訪問を振り返ることができ、改めて学びの共有ができました。

事後学習第2回(グループワーク・発表)



<発表の様子>

<概要と感想>

事後学習第2回では、「広島から学んだ『平和』～私たちにできること～」をテーマに、班で話し合い、出た意見を模造紙にまとめ、発表しました。「平和のためにできること」では、みんなで具体例を考え、思いが伝わるように工夫しながら模造紙を作成しました。

最後に、「今回の学びを通して学んだこと、感じたこと」を一人一人発表しました。学校に戻った私たちは、この思いを仲間に伝えていきます。これからも多くの人に伝えていきたいです。



<原爆死没者慰霊碑の前で>

- 1 班(原 優斗、吉田 海月、小川 日菜子、中戸川 誌珠璃、眞野 心、坂井 ほの香)
- 2 班(山田 茜、渥美 希歩、高坂 万耶子、梅原 大和、金子 雅季、石井 琢)
- 3 班(渡邊 敦仁、栗原 こゆる、萩原 星良、杉崎 知樹、鈴木 愛美)
- 4 班(山田 雄大、高梨 祐実、望月 七海、稲山 雅人、杉本 麻菜美)